

東京都公立学校美術展覧会

都立大江戸高等学校主任教諭 上 田

1. はじめに

第62回東京都公立学校美術展覧会は平成25年2月9日(土)から2月14日(木)まで東京都美術館にて6日間に渡って開催されました。22・23年度は東京都美術館の改修工事のため都立産業技術高等専門学校品川キャンパスを会場とし、規模を縮小しての実施でしたが今回は3年ぶりの大規模な東京都美術館での展示となります。

2. 第62回公立美展の全容について

東京都の公立小・中学校、中等教育学校、高等学校及び特別支援学校における図画工作、家庭、美術、工芸、技術・家庭、書写等の作品が校種を超えて一堂に会する大規模な展覧会です。発表及び鑑賞の機会を設け、児童・生徒の豊かな心情の陶冶と造形的な表現力等の向上に資するとともに、造形教育等の指導の一層の充実を図ることを目的とし、東京都の教育の成果を広く都民に示す貴重な機会となっています。総作品数12,314点。6日間での入場者数は61,732名を記録しました。

3. 都立高校部門の展示

都立高校に割り振られた壁面の長さは13.4m、台面の長さ5.4mで、本年度の参加地区は旧第5学区および6学区でした。参加校は



例年より多く、足立高校、淵江高校、浅草高校、葛飾野高校、深川高校、葛西南高校、篠崎高校、日本橋高校、葛飾総合高校、大江戸高校の10校でした。部活動作品を除く授業作品を各校で選出して頂き、多数の様々な種類の作品の展示となりました。先生方の多大なご協力により、搬入、搬出作業もスムーズに終わることができました。



4. 今後の課題

作品の落下事故・剥離を失くすための展示方法の工夫や専用Sカンの管理が厳しいため必要数の把握と使用数を最小限にすることが望ましいように思います。出展作品の選定については人権尊重や生命尊重の視点に留意することが大切です。障害について誤解を与えるような表現、破壊的なイメージの表現、身体や身体の一部を傷つけたり、生命を軽視したりしている表現、著作権などの知的財産権の侵害、芸能人等の実在する人物を描いた作品や児童・生徒の写真をコラージュした作品について人格権や個人情報漏洩への配慮がされているか等、多くの来場者がある展覧会なだけに気をつける必要があります。

高校の展示は出品校は少ないながらも関係者の来場者数を増やすことも大切なのではないのでしょうか。多くの小・中学生が来場するので各高校の学習活動の紹介にもなります。参加校を増やし、他校種を圧倒する都立高校の美術・工芸教育の成果を見せるような充実した展示にしていくことが今後の課題だと思います。